



# 南九だより

URL : <https://minamikyusyu.hosp.go.jp/>



2021 新春号  
**VOL.30**

## CONTENTS

新年のご挨拶	2
当院の新型コロナウイルス感染症対策の取り組み状況	3~4
スクラブ白衣に変更して	5
川畑前院長からご寄付いただきました	5
教養型消防訓練を開催	6
地域医療連携室だより VOL50	6

## 国立病院機構 南九州病院

地域がん診療連携拠点病院  
日本医療機能評価機構認定病院

### 院 是

#### 『病む人に学ぶ』

患者様と共に、安全で良質な、理想の医療の実現を目指します。



### 国立病院機構理念

国民一人ひとりの健康と、我が国の医療の向上のために、たゆまぬ意識改革を行い、健全な経営の元に患者の目線に立って懇切丁寧に医療を提供し、質の高い臨床研究、教育研修の推進に努めます。





# 「新年のご挨拶」

国立病院機構 南九州病院 院長 **久保田 伊知郎**

## 「新年あけましておめでとうございます」

昨年は、新型コロナウイルス感染症に世界中が振り回された1年でした。新型コロナウイルス感染症の感染拡大はさらに世界中で続いており、日本でのワクチン接種に関しては、現時点では未だ予定が立っていない状況です。厳しい状況は続いています。職員一同、南九州病院の役割を果たし、地域医療に貢献出来ますよう努力して参ります。



南九州病院は、本年1月20日、21日に日本医療機能評価機構（いわゆる病院機能評価）認定の3回目の更新審査を受けました。病院機能評価の最も重要な評価項目の一つに、患者（医療）安全に向けた取り組みがあります。

1999年、アメリカの米国医学研究所が当時のクリントン大統領に提出したレポート「To err is human」で、毎年44000～98000人のアメリカ人が医療上のエラーで死亡していることを報告しました。同じ1999年、日本では横浜市立大学患者取り違え事件、都立広尾病院消毒薬誤注射事件などが相次いで起こり、世界中で患者安全という目標が医療界に一気に広まりました。そのため、1999年を患者安全元年という人もいます。

実はその前年1998年、南九州病院では既に患者安全に向けた努力を始めていました。1998年7月、当院に入院していた末期癌の患者さんが、寝タバコをして全身に熱傷を負ったという医療事故が発生しました。当時の福永秀敏院長がこの事故をきっかけに、患者安全という目標を掲げ行動を開始しました。国内の患者安全に関する研究者の先生に、当院で講演を御願ひしたり、院内で医療安全委員会を早期に立ち上げ、全職員にインシデントレポートの提出等を指導されたりしました。

また、福永先生は国立病院機構の事故調停委員会の委員として活動され、さらに、多くの学会等で患者安全活動に関わってこられました。南九州病院ではこのような伝統を受け継ぎ、医療安全管理室（川内医療安全管理係長）を中心に、患者さん、そして当院に関わる全ての人々の安全確保に努めています。患者安全は医療の目的ではありませんが、最優先課題と考えられます。「医療安全文化の醸成」は南九州病院の重要な目標の一つです。

ちなみに、Reasonは、医療安全文化を構築する4要素として「報告する文化、正義の文化、柔軟な文化、学習する文化」を挙げています。これらの要素が南九州病院の全職員に、深く根付くよう努力したいと思います。南九だより新春号が出版される頃は、未だ病院機能評価更新の審査結果は出ていないと思いますが、このような努力が、「医療安全文化の醸成」に繋がって行くと信じています。

新型コロナウイルス感染症が世界にもたらせた、医療、経済、政治、国家間の問題など、非常に多くの問題が存在しますが、近日中にワクチン接種も始まると思いますし、治療方法の進歩もあるでしょう。令和3年は少しずつ希望が見えてくる年になると思います。

本年もよろしく御願ひ致します。

## 当院の新型コロナウイルス感染症対策の取り組み状況

当院は重症心身障害や筋ジストロフィーを含む神経難病患者さんを支援するセーフティネット分野の病院であることを踏まえ、県内や周辺地域の感染状況に応じて、新型コロナウイルス感染症対策本部会議を開催し、院内の対応を検討しています。

また、具体的な活動として、来院者の面会制限や病院玄関での体温チェックを行うなど、院内への感染症持ち込み対策を行っており、院内職員に対しては、感染者対応のシミュレーションや防護服の着脱訓練を行い、手指衛生を中心とする標準予防策を徹底に努めるなど、院内の感染拡大防止に取り組んでいます。

今般、色々な部署から次のような新型コロナウイルス感染症対応に関するトピックスが寄せられたので、ご紹介いたします。



感染症認定看護師  
古市 由香

### ● 新型コロナに対する放射線科の取り組み

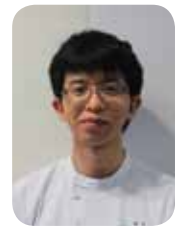
鹿児島県内でも新型コロナ感染が発生する中、当院の放射線科でも新型コロナに対する感染対策に取り組んでいます。

放射線科の主な感染対策は患者さんの動線の分離、スタッフ、検査装置の感染防護です。新型コロナ疑い患者さんと一般の患者さんの動線が重ならないように放射線科へ案内しています。

また、検査には手袋・ガウン・キャップ・フェイスシールド・N95 マスクで感染対策したスタッフが対応します（図1）。

検査装置についても感染対策に努めています。

ポータブル撮影装置では患者さんに直接接触れるおそれや飛沫などで汚染されるおそれがある管球部分やカセットはビニールで覆います。CT装置も患者さんが直接接触れるおそれがある寝台・枕・手台にシーツを敷き、感染対策を行っています（図2、図3）。使用後の装置・検査室は清拭・換気を行い、次の検査に備えます。これからすべての患者さんが安心して検査を受けられるよう感染対策に努めて参ります。



診療放射線技師  
井上 丈聡



図1



図2



図3

## ● 「PCR（ポリメラーゼ連鎖反応）検査」

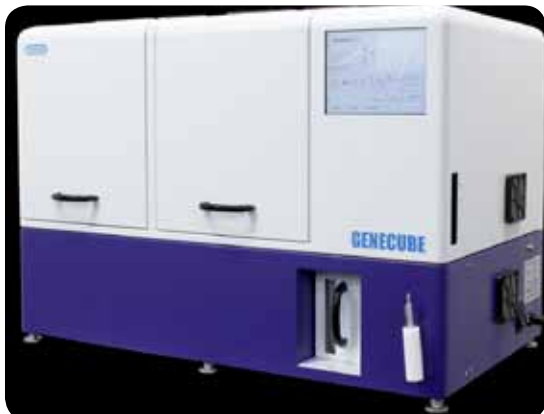
近年 PCR 検査法の進歩で急速に自動化が進んでいます。「PCR 検査」の PCR は Polymerase Chain Reaction（ポリメラーゼ連鎖反応）の頭文字をとったものです。微量の DNA 断片を増幅して検出する方法で、DNA と RNA は、「核酸」と呼ばれ、核酸にはウイルスの遺伝子が含まれています。核酸は非常に小さな物質であるため、その存在を確認するにはある程度の量が必要となります。そのため、量を増やす工程である「増幅」を行います。コロナウイルスは RNA ウィルスに分類されるため、RNA が存在しているのかどうかを検出する検査で RNA の有無を確認することになります。



臨床検査技師長  
安藤 諭吉

当院検査科では、全自動遺伝子解析装置「GENECUBE®」（写真）により、新型コロナウイルスの他に抗酸菌、マイコプラズマ等の検査も実施しています。

また、自費診療による新型コロナウイルス PCR 検査を無症状者を対象に完全予約制で実施しています。検査費用は 33,000 円（税込）となっています。詳細につきましては、当院ホームページをご参照ください。



全自動遺伝子解析装置「GENECUBE®」



RNA 抽出後に試薬と検体をセット

## ● 新型コロナウイルス感染症による派遣要請

新型コロナウイルス感染拡大の勢いは衰えず、大阪府における新型コロナウイルス感染症患者の著しい増加と重症化により国立病院機構でのさらなる病床確保が厚生労働省から要請されました。

私は令和 2 年 11 月 30 日～ 12 月 25 日まで大阪刀根山医療センター筋ジストロフィー病棟で看護師として従事しました。コロナ病床の増床に伴う配置換え等で他の病棟の看護師も不足しているとのことでした。

実際に勤務してみて、どの病棟でも標準予防策が徹底されており、緊張感がありました。このような状況でも病院はそれぞれの病棟の患者さんの特徴に合わせた環境や専門性の高い医療・看護・ケアを提供していかななくてはなりません。そのため少しでもお役に立てればと思い勤務したのですが、緊張の連続と外出が思うようにできないことは想像以上につらかったです。今もコロナと闘っている患者さんや家族、それを支える医療従事者がこれ以上疲弊しないことを願うばかりです。



特定行為研修修了  
副看護師長  
田中 純子

## スクラブ白衣に変更して

副看護部長 千代森 夕子

看護部では、令和3年1月より療養病棟の看護職員を対象にスクラブ白衣の導入を行いました。元々は手術着として使われていたスクラブですが、近年では、その名の通り強く洗っても生地が傷みにくく、動きやすいのが特徴であり多くの医療職で導入されています。

また、スクラブ白衣の導入を機に看護職員の更衣棟を統合したことや、従来の看護衣とは異なり男女兼用のためコストパフォーマンスにも優れ管理しやすくなりました。

患者さんに密着する機会の多い療養病棟では、患者さんの衣服や皮膚にファスナーを引っ掛け

たり、ボタンを誤飲したりするような万が一の事故を防ぐこともできます。

スクラブ白衣の選定にあたっては、数多くの色やデザインから看護部医療サービス推進委員が中心となって看護職員の意見を集約し検討を重ね決定しました。決定されたスクラブ白衣は、医療ドラマ仕様のデザインということもあり着用している職員は女優と間違える程で病棟が一気に明るくなりました。



看護師



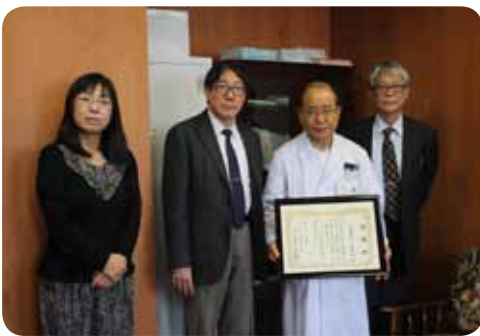
療養介助職



看護助手

## 川畑前院長からご寄付いただきました

副院長 園田 至人



前院長の川畑政治先生より多額の寄付金を頂きました。大会議室のプロジェクター、入り口の電光掲示板等は寄付金で購入した物品です。

去る12月16日、感謝の意をお伝えするために久保田院長、内野看護部長と川畑先生の現在の勤務先にお伺いしました。川畑先生は院長時代と変わらぬ周囲の空気を和ませる、あの笑顔で私たちをお出迎えくださいました。感謝状をお渡しし

た後、院長時代の思い出を中心に楽しく歓談いたしました。

川畑先生、今後ともお元気で南九州病院を叱咤激励頂ければ幸いです。心より感謝申し上げます。



## 教養型消防訓練を開催

庶務班長 谷口 秀二郎

消防訓練を12月と1月に実施しました。ソーシャルディスタンスを取った上での消防訓練は難しいのではと慮っていたところ、大阪市消防局が動画配信しているYouTube動画の内容が大変すばらしく、大阪市消防局に動画利用の許可を得、始良消防署にも研修での訓練を認めて頂いた上で、教養型消防訓練を実施しました。

1つ目の動画では、大地震想定の高緊張感のある動画を使用した為、職員の緊張感が会場内に伝わりました。

2つ目の動画は、通報訓練で、通報の仕方、ランドマークに対し、どこが出火元であるか等、事前の準備が重要である内容。

3つ目と4つ目の動画は、消火器及び消火栓の使い方、後方の逃げ道を確認する事、ホースを火元の中心に向けて、消火を行うという内容。

4つ目は避難全般の動画で避難時の防火扉の使い方についての内容。以上、4つの内容を4回に分けて、開催しましたが約100名の参加者があり、コロナ禍による、初めて実施する研修形式での消防訓練は無事終了いたしました。

末筆ながら、大阪市消防局、始良市消防署に対して、感謝いたします。



National Hospital Organization Minamikyushu National Hospital



地域医療連携室だより VOL.50

令和3年新春号  
RENKEI LETTER

### 地域医療連携室の相談機能（医療福祉相談）

突然の病気や怪我により治療や入院を強いられたら、何をどうしたらいいのかわからない状況に陥るかもしれません。例えば、治療費や生活費に困るかもしれませんし、病気や障害を抱えながらの仕事や学業を続けていくことへの不安もあります。

また、介護が必要になった際にどのように生活していくか、どこで生活したいのか等、生きていくために決めなければいけないことが多くあります。

地域医療連携室には、そのような時に患者さんやご家族からお話をお聞きし、共に考えていく「相談機能」があります。医療や看護の知識を有する看護師、社会福祉の立場から援助するソーシャルワーカー（社会福祉士）が相談に対応し、問題を解決する糸口を共に見つけていきます。

地域の先生方より患者さんをご紹介いただく際には、このような問題についても対応できますので、ぜひご相談ください。

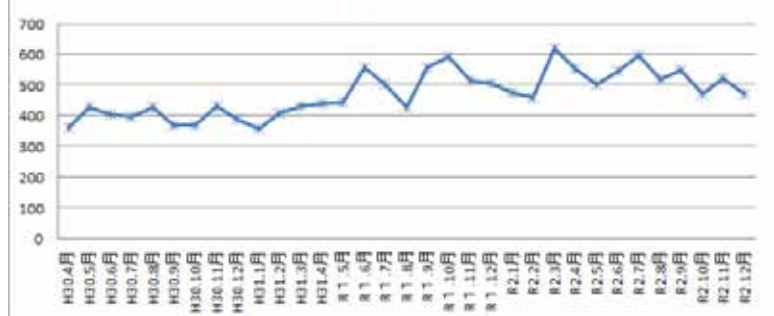


医療社会事業専門職  
前田 宏

（具体的な相談内容の例）

- ・入院生活の心配
- ・介護の心配
- ・医療費・生活費など経済的な不安
- ・家族として患者にどう接していいか？
- ・病気になったことを受け入れきれない
- ・何か利用できる制度はないか？
- ・仕事のことはどうすればいいか？
- ・誰に相談していいかわからない
- ・退院後の生活が心配 など

相談件数の推移



ご紹介の際は、  
ご連絡ください

国立病院機構 南九州病院 地域医療連携室

TEL : 0995-63-0843 FAX : 0995-63-0840